

アサマイチモンジの飼育法

作成：2006.9.26 仲西周二



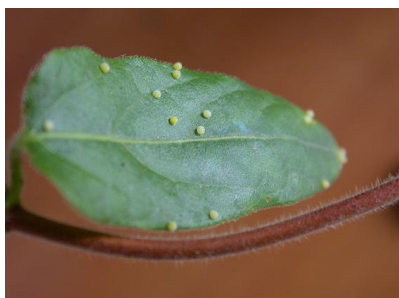
全般

8月20日に梨が原(自衛隊北富士演習場)でヤマキチョウの採集をした折に、会友の羽鳥さんが採集したアサマイチモンジ母蝶を譲り受け、採卵、飼育を試みた。この時期の飼育で、年内羽化に至るのか越冬羽化となるのか、また初めて飼育する本種の特性を見ることなどを念頭に置いた。

採卵、飼育とも極めて容易であり、結果として年内羽化と越冬型(越冬幼虫巣)の両者を見ることが出来た。採集や飼育が閑散となるこの時期に、手軽に楽しめるのでお勧めしたい。

採卵

写真のような目の粗い洗濯ネット転用の吹流しに、瓶挿しのスイカズラを入れ、母蝶が少し飛べる程度の空間を用意した。セットを室内の窓際に置き、直射日光は差さないが明るく風通しの良い環境とした。母蝶へ



の給餌は、砂糖水もしくはアクエアスの希釈液を、カット綿に吸わせて吹流しの上部に置いた。母蝶は頻繁に餌をとりに来たので、気付く限りカット綿に水をスプレーして餌を切らさないように心掛けた。



母蝶は既にかなり産卵済みの個体と思われたが、採集の翌日から直ぐ産卵を始め、3日間で約30～40卵を得た時点で十分と考え採卵を打ち切りとした。

幼虫から蛹までの飼育

卵から蛹まで全ステージを、室内に置いた覆い無し of スイカズラの瓶挿しで行った。スイカズラの水揚げは良く、また幼虫はおとなしくて蛹化まで植樹の枝から逃げ出すことは無いので、飼育は極めて容易であった。

東京杉並の自宅での飼育結果で、13蛹(年内羽化)、6越冬巣ができた。八王子の羽鳥さんの飼育結果では1蛹(年内羽化)、2越冬巣となった。年内羽化と越冬型の比率こそ違え、



どちらにおいても同期の飼育で年内羽化型と越冬型の両者が発生したことは興味深い。
また越冬巣は、作りの丁寧なものから、幼虫が丸見えの粗雑なものまで、変化が見られた。



写真説明

上段左：初齢幼虫（特有の食痕先端部に幼虫） 上段中： 3 齢幼虫 上段右： 終齢幼虫
下段左：越冬巣(丁寧) 下段中：越冬巣(粗雑) 下段右： 蛹

イチモンジとの相違点

終齢幼虫の尾部の 2 対の突起は、本種では後ろ側の突起が前側に比べて短い。イチモンジでは両者が同じ高さとなる。

蛹の角は本種では短く横に向く。イチモンジは長く並行？

以上

